

● 本会の動き ●

☆「第10回上席化学工学技士交流会」について☆

さる7月6日、恒例となった大阪地区での上席化学工学技士交流会が開催されました。この交流会も東京地区と大阪地区を含めて10回を数え、各地区において活発な議論がなされています。今回大阪地区では11名の参加があり、当初予定していた時間区分を超えた活発な議論が行われました。

今回の話題提供として、住友バークライト(株)河口氏より『住友バークライトにおける、プラスチック製品のプロセス開発に関する事例紹介』という題目について講演いただき、参加されたメンバーの方々にとって、また筆者にとっても非常に興味深いお話を聞くことができました。残念ながらすべてを記すことはできませんが、特に話題となった内容についてまとめてみたいと思います。

「人材育成・教育」について、参加された各社においてどのように進めているか話題となり、技術者（ここではケミカルエンジニア）の基礎教育として何を教えるべきか？ となった際に、“物質収支や熱収支を大学で教えなくなってきているので、企業側で実施するしかない現状がある”との話も聞かれました。一部の企業で進められている、「化学工学技士（基礎）」等の化学工学会主催の認証資格を積極的に取得していく活動も見られ、これら基礎となる“座学”と現場設備における事象を元に考察し解決していく“実学”をどのように教えていくか、各社ともに試行錯誤を進めていることがわかりました。

「安全」については、これも昨今化学産業のみならず話題となっている事案であり、話題の全般を通して感じたことは、最終的には“人”の問題となってくるため、如何に体験させるか？（研修施設）、可視化するか？（CSBのYouTubeビデオ・日本能率協会等のビデオ等）、統一基準を作るか？（グローバルスタンダード）に集約されていくと言うことです。従来は、国内での工場新設もしくは大型増設時に、新米技術者や運転員がそれらを含めたことを学んでいく機会があったのですが、そのような機会が少なくなった今では（最近では設備投資が旺盛になってきているようですが…）前述したことを進めていくかがキーとなるようです。

その他、プロセス開発の話題から日本と海外の業務思想の違いについて話題があり、やはり海外トレーニー制度等があると視野が広がることから、できるだけ若い年齢での経験は必要と考えられます。また、“何でも屋の日本人”と“Jobに従う外国人”、“品質改善（作りこみ）でモノを良くしていく日本人”と“マーケティング（もしくはコスト）重視の外国人”の言葉は、今後も日本がグローバルに品物を売るということに関し、考え方の違いを良く認識するべきものと感じました。

その後の懇親会は、講演会の流れのままあちこちで歓談が進み（筆者にとってはそれぞれ経験の違う方々のお話を聞けることが非常に参考になることが多く、実はこちらの方がいつも楽しみです…）、話題は尽きなかったのですが、遅くならないうちにお開きとなりました。懇親会の席では、今まで以上に発展的な方針が提案され、今後の計画についていろいろな意見交換がなされました。引き続き、本交流会を発展させていきたい、開催場所にとらわれず次回以降も多くの方々のご参加をお待ちしております。

（クローダジャパン株式会社 英 敬信）